

大地整第 228 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

山形県大蔵村長 加 藤 正 美



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付けで依頼のあった標記のことについて、別紙のとおりご報告いたします。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

山 形 県 大 蔵 村

・50年、100年先を見据え、歴史・景観・環境等に配慮した道づくりが必要と思う。地方では、道路財源の問題をはじめ地方交付税の減額により道路の維持管理も容易にできない市町村も増えている。住民ニーズは国道並みの維持管理を求めており、多くの要望に対応できない状況にある。また、橋梁、トンネル、舗装の老朽化、劣化も著しく、国民の足元からの整備も地方では必要となっている。県・市町村の道路財源の確保も急務となっている。

○優先度の高い要望

- ・高速道路(高規格道路)のネットワーク化を推進し、地方都市・周辺市町村からのアクセスとの時間的距離の短縮により都市との対流、社会経済の活性化。
- ・災害に強い安全安心な道づくり。
- ・雪道に強い道づくり。
- ・地方では、まだまだ生活に直結する道路が未整備なため、県管理国道、幹線県道、幹線市町村道の整備促進。

○現状

公共交通網が整備されていない本村にとって、１家族当たりの自動車所有率が高く、移動は自家用車によることが大多数である。隣接する新庄市へは高校の通学、通勤、日用品・食材の購入と生活をするうえで道路はなくてはならない生命線と言える。村内集落間を結ぶ村道のうち車道幅５．５ｍ以上の道路は３０％の整備率となっており、すれ違いの出来ない道路が大部分を占めている。特に冬期間は道路幅が狭くなり対向車とすれ違うことはままならない状況である。また、大型車の通行が多くなったことや冬期間の除雪で舗装面の損傷が著しく、維持管理費が嵩んでいる。

村内を縦断する唯一の国道４５８号は整備が始まったものの道路幅が狭く大型車同士のすれ違いは相当減速しなければならず、砂利道で大型車が通り抜けできない状況である。

最上圏域を通る高速道路の計画はなく、高規格道路の整備がようやく始まったばかりである。また、県内の高速道路も全国に比べ整備率低く、高速道路へ乗り入れるまでは４０ｋｍ近くの一般道を走らなければならず高速交通網のネットワーク化が進んでいない。

○課題

集落間を結ぶ道路の大部分は急峻な地形を通る道路で、急カーブや急勾配の道路が多く、冬期間は交通事故の発生が多いことから、安全に通行できる２車線化あるいは１．５車線化の道路整備を促進し、利便性・安全性及び災害に強い道路整備を実施しなければならないが、急峻な地形のため道路構造令に乗っ取った道路改良は多額の工事費を必要とし、限られた村の財源では整備が進まない。また、舗装修繕、橋梁塗装など大規模な維持修繕工事を実施することは厳しい財政状況の中、困難な状況である。

近年、自動車のカーナビゲーションの普及により、初めての道路でも安心して通行できるようになっています。山形方面から肘折温泉へは、山形自動車道寒河江インター経由で国道４５８号を通るよう案内されますが、一部砂利道ですれ違いができない道路で利用者からの苦情が多く寄せられ、肘折温泉のイメージダウンに繋がっている。

村の産業基盤である農業は水稻に、園芸と畜産をプラスした複合経営化により野菜、キノコ類、肉用牛などの出荷が増え、産地ブランドの確立を図るうえでも、市場への運送は早くて到着時間等が計算できる高速道路網の整備が必要である。また、近くに就業の場が少なく若者の流出が多いことから、地場産業の育成、企業誘致の環境づくりを行うためにも高速交通網の体系づくりが緊急の課題である。

本村は、人口の減少・少子化・高齢化が進展する中、村内産業経済の発展を掲げた施策の展開を進め、特に村の基盤産業である農業と観光の始め工業の活性化を図り、働く場所を確保し若者の定住を促進する。農業においては、施設園芸作物の夏秋トマト、ミニトマト、ニラ、タラの芽、椎茸、山菜や肉用牛の産地ブランドを確立し、市場への出荷を実施している関東、関西圏を始め主要都市へは、高速道路ネットワークを活かし新鮮な農産物の出荷体制を整える。観光産業は肘折温泉郷、日本の棚田百選に選ばれた「四ヶ村の棚田」里山の環境など豊かな自然や景観等の観光資源を有効に活用し「宿泊静養型観光」から「体験する観光」へ移行した自然交流体験型学習地域の形成を図り魅力ある観光環境の整備充実に努め、仙台圏を始めとする各地域からの高速道路ネットワーク、国道、県道のネットワーク形成を活かし広域観光を含めた観光客の誘客を進める。工業は、岩手県宮城県に自動車産業を始めとした新たな産業の集積が進んでおり、当地域が東北地方中央部に位置するという優位性を活かし、石巻酒田高規格道路の整備と合わせ関連企業の誘致を進め雇用を確保し地域振興を図る。また、本村は国内でも有数の特別豪雪地域であることを考慮し、「日本一の除雪完備の村」を目指した克雪道路対策を進めると共に、急峻で狭隘な地形の厳しい自然・地形環境下にあるため四季を通じ安全で災害に強い交通体制と救急医療や緊急輸送体制を拡充する。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

山 形 県 大 蔵 村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・日本一の除雪 完備の村	除排雪経費と維持補修費の助成制度	豪雪地の除排雪経費や老朽化している道路・橋梁の維持補修費の助成は、逼迫した地方財政に「ゆとりと夢」をあたえる。 ・克雪対策 ・交通安全対策 ・地方財政対策	
・弱者に優しい 道づくり	村内幹線道路の拡幅改良と歩道の設置	積雪時も車両の通行を容易にし、子供から高齢者まで安全で安心して歩くことができ、暮らしやすい村づくりが進む。 ・少子高齢化対策 ・交通安全対策	